中村授定文庫
文庫 18
893

青枝

序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

序

まことの事は空林乃林年こもる
いまや佛眼字ふるまふ〻〻衆心いふ
際まこと陳世乃法の拾してなまい
世話物の遠さ屋敷ものもの上意この
さて一意とふく弘生合掌して
拾魚伴仙物價佛と項拾夫

安政乙卯醉夫彩乃白

三竹漁夫貴池敬白

梅價翁京師人也姓紀氏喜多川名公香字子国号枯魚釣叟或伴仙翁業醫或應本願寺文如大僧正招為醫官然性博學宏才氣象飄逸從時東山蘭更學能諧道遙四方風流之地所以是達其性也於是乎海内一時風靡烏乎悲哉天保十四年春三月七十歳而死四方門人慕之不堪遂男蕙園祭魚浪花清水梅民勒其辞世句云

皆安政二年歳在乙卯春三月望

安政二年卯二月十一日壹年忌

梅價居士

花くもや 咏のひとつを夕暮

志ゝ〳〵草孔雀〳〵ゝゝろ　桑虫

山歌も春寄〳〵く来鶯哉　丈翠

ゆゝゝん夢のそゝ恵をくゝな　害角

五重の樹孔雀上深はゝゝゝひ　梅斜

風ゝゆゝてゝも波雲寄すろ　霞僊

さゆるころ　暮秋　暮秋の月代平　雪明
秋の月のさやけさ　月のひかりに　素隣
孤屋の秋　孤屋の墓　蓋水
家中孔よめの木の葉　家中　庭柳
むんつけも　白ふ樽の上　如雲
そそうやも　白ふ　白ふ　如瑞
嘶孔雀　嘶孔雀　嘶　拂ふて　蓋州
第鈴　第鈴　第鈴　志ちく　けり　性仙

孤屋の寄　寄　寄　寄　拉某
月　月　月　月　柳高
ゆさ栗平　ゆさ栗平　ゆさ栗平　ゆさ栗平　夢味
ちふ　拾の丈　拾の丈　拾の丈　鳳卵
打婦　打婦　打婦　打婦　某堂
寄ると　寄ると　寄ると　寄ると　乾坤
嘶そろふ　嘶そろふ　嘶そろふ　嘶そろふ　禾明
おそさ日　御平　御平　御平　如漁

捲てゆく帷の花衣乱れ咲き　柳絲

松子年のけてや　老　佛　押意

如何ぞ乃屋ふ花の見さかりて　柳後

恢くのくもる雲　乱　詠う意　草之

ちり雪の沈てもぬるる南かハ　梅叢

新こ世ちく乃深地せ落　さ　雪子

こしちく簪　搜す小引せ　孤柳

むすめの袋　簪　袋る　ゐ　ゐし　家外

ゐてゐ地捉と繰ふ乱乃夢　鼓堂

出つゐふ居き　と堂　袋る く　玄外

設法の雪え地設よ押あふて　柳影

あゐ　ゐ　ゐ　る　る　花の形　る　真仁

押ふ捉ふ所の　ゐ　乱　月　法苦

海年一ゐ　ち乃　ひ　る　家　家　席曇

ちゐ　ゐ　ゐ　乱西乱　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　家雅

唱ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　仙岑

ゆうぎりの色ふかき赤合羽　多岳
帽子をかぶりて国乃紋うく　嘉松
糸まの色ふかきさ出ぬきさ　鈴重
鉢とをつ為乃まつ　宗紀
ほ佛ふるハ拵摩於ふもほ備　如逢
はぬしふひくさ某国乃れう　暉嘩
な霜くしをの弓と爾ユ明紙　寸之
拵さ鏡馬をうかうよろふ　太平彦
菊隠

結ふとハ入盃をつて弓を仕舞　面新
ふちをそ丸しハ空覚しつる　坊花
おくロの箱ふ弓乃ふつち　梅通
行家ふもれす独活の香生　葵丈
関寺年出武者絵を祝ふ乃人　卦弦
姫をわ〜さ烟筒の挿く　雪摸
合うて寒ふ乃中の板ふん　正一
つふ社をふ歌乃ふ紙さ　彦地

水腐をさしもとし拔てよ　松苗
けさしれ葛葉ハうれ色のごとき　水陰
洗ひ屋ウつて了稚乃ゆくれて　鳥毒
ちゝさ葉粥年　古炉（コカス）すれ　弘妙
方丈ゝゝゝ拔子赤のひとさ陰　敬之
見るもども葬をむふゝ新ゝ　妙月
変あれさ住ゝ年啞のゝさゝ　待絶
拔殼の計ゝゝ年稚うれ　蕎山

出て摸年徒すて来ゝゝ乃月　月坡
小等ふあ経もゝ川と蛾の屋　蕎立
蛟人乃新涯の破を洲ゝう　大味
ゝゝゝ反出ゝふゝ瓦山　豊足
花ゝゝゝ別あ年鎖を突さて　赤丈
喫（ケツ）嗽（ケツ）すれハ乞ゝちゝう家　ゝ家女
命ゝ新ゝゝ勅年竟の切蓮　一弘
朝りゝゝ乃天ゝゝゝゝる　呂経

年経たる魚の墓とぞ思ふ哉　有節

曉ぬれしくろくろと草かち　孤峰　郭山

右

百回忌法事略

名ゆゑ雲とてつむやま向の学菜　藍子

ふさたりらたまつたり空春の霞　蛙水

回りや寒ひ梅さゆ〳〵し　如雲

独年長く梅ふか白ふ紅ぶ　鼎富

年〳〵を経て尚〳〵様の美〳〵れ　藍渕

ゆく行や咏を追へて引ちぢ〳〵　霞僊

はつうらんて梅うる春〳〵やうふの答　嘯角

古ふ郡る雲のうちうや梅乃うれ　素樸

春の花を惜むく傷ふや梅一枝　杜業

うゑ田ふく猶も寒るや新のうめ　彦栢

春ふむ日ふ神の温るや梅乃花　柳花

切る人や行雲をとゞんても花曇り　正敬

探り雪や行ふつけてもおもひ出る　箕峰

うゑ田や暮ふこゝろ乃雲煙り　梅史

春て雪のゆくく言し梅孔雀　如澳

拙くもやけふハ特更ふ保るうゑん　性傳

焼て野ふ行て見れ　小萱　山蓼

見る日也や雪はふ孤寿草　芳立

雪しさ人も年くや塚乃苔　如塘

春て雪れ去くく実らん梅もゝ　蕣原

去くく人の更原し山乃梅　梅峰

人笠の原ふる春や十と色の餘　糸叟

成るハ春原敷吸るくうめ乃花　うめ女

降くふ一て竹けく草のりち　妙女

梅うゑて年人乃集るはつかしい　鶴月
そゝもさや梅のうほうれもふ庭し　越高
すゝきのそつ苑乃月うゝ家　芝雅
すんとつふ年又うめ雲の新　一就
苑吸のゝめ年京也ちゝれ　蛛坡

乃乃うゝ後てもあふ後西の空　大淡
毋向よと也うむう苔を踏うゝ　鄭山
百年うゝ梅の便や殺乃春　仙佛

折そゝゝ苔ゝ毋向ん梅やふゝ　鶴岩
梅ゝゝゝ咲うゝ古ゝす泡うれ　雲松
けゝゝ先様百ゝゝゝゝんうゝ　大味

ふ金乃便やけゝの月ゝゝめ　仲信
梅れゝゝや莨うん梅ゝ毋向ゝを　湖雀
ゆゝ乃ゝそゝれつゝゝ昔ゝ　百新

ゝゝ形ゝん年ふを乃の初ゝゝ　秀雄
京うれ也梅を其日乃白ひゝ　雲田

志ゝ〳〵堂梅うゑかるる庭うれ　朗風
葉うゑも　月も　空行く法の音　空之
照ゆくうゑう秀ゆき尾う角　出外

志筆〳〵と苔ふうゑる色　仙岳
ゆく〳〵やは深乃深数のめくるれ　奥仁
梅うゑよ　むく〳〵ハ　空し　乾ん　篤明

うゑう秀〳〵空ゆる松ゆ空　梅斜

仝上

一ゆ乃冬年ゆ空ゆ拾ふう色乃友　梅通
草ゆ樹ゆ冬〳〵紅ゆ日拾八空冬　柳斎
空柳乃冬仰年〳〵ゆる手向う拾　太斗麦
冬ゆう〳〵の冬〳〵冬乃白し　鳥谷

冬空拾ゆ〳〵ゆ〳〵色の水冬れ　月坡
色〳〵ゆの月日空夢う和さ〳〵　有美

春雨の中に聞くや仏乃姿　芝雅
聞きなれて蝉も来て鳴く法の場　深芝

恵翠やひと枝そゝぐ白菊の水　文鳥
白菊や忘れもせぬ梅の白ひら弁　雪蓬

掬ふ手に若干ある雲や春の水　左京江戸　弘鳴
蝶々も来て日和むや墓の宮　多岳
忘れむとふけて蛙の音ぞ　爲舟
春ひとり成れすや二の舞う　杜夢

雨ふるに来る人の目　恵泰
法の花やちるも稀ひるも稀乃うく　未丈

寺の子も知るも知らぬ供養れ　守舟
元樹しく梅も盛りやけふ乃雨　舟川
蛙ふりの雨ぞ降て揺年目　才阿
安孔吉ふてよろふや尾の長　里坊

子を合せ新や彼岸の西乃雨　蕾山
雨も帰も春を慕ひそう梅の目　朱之

人の知る十三詣りや雲の乳　　郁孤

蹴る雪の年忘れ　　梅の夢　　宝月

和琴のまねする竹の図の雛　　唐池

梅ゑ咲や遠見くれて雲原し　　柳水

ちる迄無き色もなし梅のうちひし　　松蔭

抱られぬ草やせ蕨しなし　　時雄

回向しなけさくれなゐ梅の新　　紫雲

さし昇る日影ゆかしき　　雨翠

祭立系図子乃主を業営まれけるを
古老とはしめうやまひて門ひろく
特逸居こわりて斗くさきと同のなりその
梅民子一煙の一句をたるれる彫後古小
乃ちさんと一点のちりうして速くあり
志の厚さもはれ懐乃厚なと慕ひて業
あるを

梅ゑ雪や孤隠ゆれと忘らるさす　　丈翠

とく予花の比吾拾意翁壹貴吉乃法医
とはれあり一本山西ひろうてとまれ
けるを雨霽よ日のうつわく足ひたしくと
雪より年をいとふ後きよとの限りあるれ

はるくく年をえれておりくハ老度　　秋明

あるひ寂裕居士小祥忌の遺墨を示されし
て一人精舎に年忌立するハ此の恩謝乃
ふかく一入むかしを志のふ便せんと思ふのミ

むかしの香梅さく年にかをり計り　　浪花　梅氏

先考十三回忌の春にしハへて乃あ文よりされ
つらしおのミ亡ハ此ふうる実乳一集をさえつ
おれ上ハ悦りもく美なる備くあきをうつ送りけ
としなかし

うめか香やけふまて残りても餘あり　　素由

仝　於恩追福会奥行

俳諧之歌仙

此たしみれてもつむや花すゝき　　居士
やかのく笑みし世まての秋　　拙人
ほろゝ府名物をしけふ嘯つれて　　宛渓
つくりて計读く草履まい出けり　　岳木
追く年なぬ門りれらふ月哉　　吉垣
斗る目つく〳〵世後乃出ぬりけり　　翠峰

宴例のもくさひしさ萩のこゑ　勢国
鶴をおろがみてゐるはるは　翁斑
ゆふべの　猟衣結をかたてて　立僊
ちりさまよふ　琴をかなめ　羅雲
袋の蓋を附南ひのうしろ　馬梅
ひのほそ佐ろ　口伝をゆる　渡月
うゝ鑑面の暑をなるを　宗月
猫ひとやうし　味の色つゝ　有隣

四五人の子ハ笑ひ　鍵を　玉雪
ちりしをりをうゝ　円　磯　梅雄
誘れつさひ　老ひをを　宗人
芳ちゝひゝ　老眼鏡を　梅月
宿引の名ひの影も　長寿　梅人
ゐる　摺　ゝも　ひの　経　亀陵
おゝ入墨を仕も　和紙　ゝ　安木
ゝ参ゝ　擦　招の　葉　孔雀　吉垣

[illegible]　　鷲峰
[illegible]　　教仙
[illegible]　　金泥
[illegible]　　其仙
[illegible]　　羅雲
[illegible]　　う梅
[illegible]　　海月
[illegible]　　宗牧

[illegible]　　玉雪
[illegible]　　梅枝
[illegible]　　葉人
[illegible]　　梅月
[illegible]　　牧事

五向

五年のつりも花に紀念れ　龍渓
遠退とふらくふし花のこと　梅人

けさとなれば明るうこと入るやふ蓋　畠涯
まりひなせ世ふさうれ毎日せ　吉姫
伊八うたえれうやうあるる　安永

けさとなれば山吹うつる泉　一う亭　玉仙
五年たてもりを知るや塚の花　玉雪

五命ふくんうけ西ふりも　潮月
おりうれを花ふ忍ふやの竜の雪　呂月
はふ曇う谷の行ふ年来梶　羅空

匂ふ奥おふ花月ふ多ふ月　静岡
年弥生ふふ雪ふ雪ふる　梅月
花のくるのを来ふふる秋紀　五雄

天海にたなひきわたる景色かれ　翠岑
出しぬきて手もとふや春の親　梅雄
草の戸や花よりおくる花ふゝけ　宗人
花に折梅も花のさかりさかず　禹梅
大
執筆　梅久保徒

又春手向

桜くもる宮てる花の曇し秋　伊賀　松園子
わかれし経せ一月や花すてもの曇　花遊女
春宵し月よりかし平かゝる雲　松霞子
一むらし菜ふや花の綻しつく　菊雲女
羅かくもや眠きさき平かゝる春の親　鴫石
花の香れ今しや立ちて乃空青月　石之　杏池

吉野寺を見もてゆくに花盛りなる　伊勢　重富

年をつけて見るに梅一本の梅　雪坡

梅の香もしるき春の花の香　丹波　公秀

咲くまゝの白たえぬこの春　扎友

十三年ぶりにて梅をみる　伊丹　煉夕

おりしも新たに見やハ宗さらん　浪花　宗雄

そもそも保明の焼野けむれ　泉堺　麦面

思ひ出る春のうゝ保ゝ三日月　美濃　柳枝

某の花乃れるゝ年ゝ芝ゝ愛　伊勢　水傳昇

ゆゝゝ一本形て梅の咲れを　江戸　黄雪

春のゝ日ハ打ゝ傾こん梅ゝゝ　駿河　默乗

立ゝ見ゝ年日や忘ゝを　茜逸

芭蕉山四字を書ちる金龍庵ハ芭蕉のこ
歌仙台乃建に縁ありて但翁も志るく
後と於ゐし事ハ深き因果ありとも
音記乃石ハ世にまなしと紀念ありし者
梅價翁乃石碑を築まき絶えたるを久く
ここにたんと集まれる孝子家中世志摩梅民
乃かるることを記し事を聴事之
梅のさかりを見て芭蕉ハ仁序

貝羽子書

四季混雑

元日しての思ひ出にする虫小松の枝　聖富
古塚おもく鶯きく啼のこ出草　花全
遠山や雨しる春く梅と柳の浪之　柳緑
ひらひら小野をて笑て川明子の松　柳浪
波の音ハ千小石鶯きて晴の家　夢蝶
宮一まする旅ちま秋晒ん子規　草之
竹の村の人の傘て利し中く野寒む　也紅

[illegible]の新[illegible]て[illegible]む畑　素尺
[illegible]　山　向月
[illegible]て[illegible]ん遠　雪推

降[illegible]て[illegible]て門[illegible]の面　照曽
出遠入[illegible]嬉しいの松　紀昆

江[illegible]の新[illegible]　梅叢
[illegible]　霧渓
[illegible]一樹[illegible]　柳意

都さも　去乃[illegible]面松[illegible]　義川
川く[illegible]面や[illegible]の[illegible]　青泉

置[illegible]　[illegible]お礼　梅[illegible]　四　柳[illegible]
[illegible]ち　四面[illegible]　[illegible]月

[illegible]　[illegible]の花　黄雪
日の[illegible]て指[illegible]　一涛
[illegible]乃[illegible]　雪便
[illegible]や[illegible]の一[illegible]　[illegible]

雪ふる寺に雲ふれ　雪堂
ちるもみぢの木の葉ゆふ　仙子

あつい風をとよ松の梢の秋　方耕
淋しさも忘れてうき世古寺の　雪雪
夕の雲ふる雲ふる葉の物乃雪　丹香

一遍人おもひつめて花の夜　琴良
花乃面行てとれば降ふる　寥〻
紅月の下陰ふまし　山楊　桜月

あつい際や雲ふる〻ふる波うら　綺水
ゝりや、ゝてゝ月の月　莫子

撥撥の葉ふ一ひらも黄葉かな　花渓
草〻〻も思の記ふるゝ　月桂
駕の戸ゝ戸ゝ城ゝ山迄乃蔭　ゆゝ女
葉ゝゝも葉ゝ世ゝ傳ふ　一の成

渦巻の水もふれ彩紅葉　雪泉
ふ際やふも紅ふ草ふ月の雲　花蕉

雲高　梅車

里秀　蕎越

寿山　梅蕎

菓郷　孤柳

壮楊　東峰

扉男　有推

起雲　東枝

古山

入日や路ゆく雲もすがた
さし昏や暮ゆく空の隈

其の空と霧よりあと色の見渡れ
ぬくもり寒ひ枯さそう処や幼の末
空日や遥よりまぼろしら

暮ゆく旭不雲の島ゆく猪山ゆく
あ一昏よ鉢日所る国ゆく
わすれなるる事安ひそう鉢　揺

[illegible]の春　如風
[illegible]ハもん後をむすぶ　鳳卵
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]の夢　素雲
月[illegible]や掛[illegible]繁[illegible]月[illegible]　芦十

はるもなれ[illegible]　一
むし[illegible]　文車
[illegible]ひ[illegible]つ[illegible]ぬさ[illegible]て[illegible]　仙菓
[illegible]れや[illegible]人の[illegible]　[illegible]

[illegible]猫の[illegible]巨燈[illegible]　月撥
[illegible]ひ[illegible]おて[illegible]　梅傑

拡杖[illegible]　如蓬
[illegible]杖集[illegible]　鳳

[illegible]　松甫
[illegible]ひ[illegible]　[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ひ[illegible]　丑鳳
[illegible]て[illegible]柳[illegible]　[illegible]

雅さ四方にみちとうとてけさの煙　曉雪　春亭

むさしの野の日行くらはしるし　雅有

芳野の紫の戸ちらや梅ろ色　如明

寒さしてうちけ人の傍柳れ　松翠

梅そろふ蕾や帝れ敷の敬　安山

ちらくと面白さは和りの糸　芝路

春雨ふりて夜ふかし枝形の影　秋雪　良花

安さ敷や夜ふかし敷の吉祥　紫葉

鶯や日ふるさ敷の敬　日人

はつ雪や竹の下葉の清水　立藜
見そめしふる郷の雪　知足

三日月や夢ぬけそめしふるの雪　眉美
ふる郷のめぐりふる雪乃こと　松宝
雲雀やそれちりぬるの春　石雀
きぬぎぬの中戸あけ月入ぬれば　小春
白ふの乃ちを抱き抱をおよびに　一雨
ぬるる人ぞ乃ちてよし五の月　蝶兄

稲寿家に尾ぬ人あり名を清水
木枯や流れ出ぬ梨子ぬ　李雀

知乃花やちれて散ぬ西の雲　湖水
ぬり乃や袖ぬ散ぬ立ぬ　眉山

雲を思ぬ詠の乃や抱乃ぬ
を跨の乃ぬ雲むり寄れ　雪宿
雲ふ入ぬ乃ぬ咲れ星の月　梅巣
雪解やちぬ乃ぬ抱の岩　抱翠
松郎

梅乃中ゆくも一人や世をうらん　不角
雪のうくるる白しや蕊ふくらむ　松隣

所々に開く千鶴の葉和や和　梅著
年一回玄光の好みをけり　警中
西面て寄つゝ牡丹の枝　祇公

鶏声や寄て思ふる枝乃うく　琴一
梅川の塵をひらり捨ちうち　李洲
後ろ姿て霜よりの上の相ひとも　公祇

出あふるや梅ふ宮ふれまんの日和　伊丹　曲阜
世ゝ川と日ぬさ流よう花の白ひ　古慈
えりやこゝくこの八る雲の石　獨人

り私ゝ花や江戸ゝ山乃新　よ孫女
をうゝ紀く耳ゝ和ゝ和爲　李月
蓮生や蕾ゝ枝半の一茶笑　岳路

たゝ[illegible]ふよの[illegible]の面こそ暑うれ　根本　幼春

降しこゝろ面とあるものうつり　菅樹

つくる門平生こそれる茅の宿か　留田　縣人

ひろ[illegible]の中みる蛍う鬼う物　泉堺　此方

蛍く来る搗乃秀の和し色　柳色

蛍掬や蓍れ[illegible]を送る　聚山

ひさ[illegible]や変るけしの相一葉　此松

[illegible]や[illegible]や[illegible]の反木立　江戸　由誓

蟬一羽咲しを新や拾ふ松　医源

雲の秀る花孔秀る乃苦水か　逸湖

[illegible]掬や[illegible]紙[illegible]お[illegible]　抱象

あさ[illegible]花や[illegible]のそく新孔号　丁知

咲る故乃[illegible]ふ[illegible]牧[illegible]　定路

[illegible]木[illegible]八[illegible]る[illegible]人計[illegible]　為山

三うりんや帆のゆく松の八白　尋丞
降雪のつゝみ西うなゝ雲ふれ　素行

濁りなれと祖扱すてる月おろす　遠藤
ちゝ雨を洗ひ去るやつゆけく　文雲
鷹の蚊をとれと蕊乃ふるれ　聖空

和拾遺ちゝなるゝやゝしの蚊　大堂
ふりしれと星る新たりまの月　樹石
十三おゝを一ちゝ雨りの雨うる　卓島

陽ふゝ雨のゝ新のゝ　西馬
ゆゝて咏の陰ゝ日迎れ　坦く
空雨やゝきゝ陽の陰ゝ　西楽
新年ゝの八雪ゝ雨ゝ子　知く外

風ゝゝ原ハ白ふや梅の香　半湖
はゝ月をやくゝを友の移ひ時　西雄

某ゝゝけの旭ひる新ゝ
除ゝゝく地ゝ亜新やその月　渓高
梅笠

不寿しやいとゐ毋あるゑハ紙ゝ形　中吟
おゝも紙も軽ゝ生れ　鈴代　月杵
菓子一千くゆもおろきあやも遠のゑ　素豆

白ひまくさゝゑみるゝあく蕊う苗　松屋
口ふ痩し草ゝも実のゝて待れ薬　小子
色宣紫のひしふ乳ゝ餘きり　竹吉
ちん雪やゆひしけれなりを折ふ　芦路

乾酒ゝらゝのゑゝ和明面　祖郷

芝ふ花根の形さ見れかゝう計ゝ　水垂
待ふ恋の雪ゝ中雪ゝ来て后の月　古季
世ゝ色千七夕の秋乃ゝゝけゝ　三星
芝翁や神千こゝろゝ面しつく　莫ゝ

久ゝしやゝ祈ゝゝまゝゝふ影　乞　月ゝ
待ゝゝゝゝふ新て神のゝゝ　吉好

絵ゝゝもおりふ小豆れ新茶和　崇雄
恋ゝ色夜ゝゝゝ芝のちゝゝゝ　茅古

有明の空うすくなるまでも梅ゝ花　呉城
月もれつゝ春や霞ゝ霞の袴　昌啓

さゝ鳴や入日もうすく霞り渡　琴頂
紅ゝ雪やつゝみ山ゝ霞ゝ家　樵水
霞居てすゝれの音も哀の秋　兮哉
三草山月を白ゝ霜ゝ兎の春　多吟

立ゝ地平線ひゝくやゝゝ雲　雄古
長妙ゝ宋の戸出るやおぼ空　杜涼

おろゝ行るゝ山ゝ花ゝ梅小月　言山
歌の松山ゝけて居ゝや牧を草　波静
一ゝ雲ゝ雲ゝ雲ゝ後ゝ雲を雲　得甚

追初冬の戸八ゝ花春ゝ空　後西　徒山
懸年月さゝや牧ゝ馬ゝ　麗く

一ゝ雲ゝ雲ゝ好ゝ雲ゝ鳴の臣　甲賀　欽哉
ゝ山ゝ雲ゝ日小向ゝ鹿や岩の上　雲里

休をとる日ふるけ一夜酒　武蔵　林山
移ろふくるまとまるを小殿哉　雪三
けさうとまとを一ぜうとうとの蒙　雷く

草ずてにとまりそなれの色　三河　道宇
鳴く山年をとるとも康の春　三岳
日新やおれ〳〵うとまの節　波文
ちるとのうとまとつるとまれ　下総　春年

雪〳〵ふる果報とかはとなる　上毛　冥市
雪の降ふるもゆく年とけ　駒幹
時雨年斗ふるとまるとかの宿の空　下毛　竹雨

春雪の竹乃下ゆくめるゆ康孔義　唐戸　多代女
歌を巻てゆくむけ不如鳴　面石
江のゑ孔ふるとさるある抑孔　佳民
草も樹も紙ゑ如日のゑ雪哉　仁河

黄鶴やすみけり孤よそ雪の隙　江三
ゆくへの風乃名つふや嶺と空　如雲
越人乃泊つ底りつ那ゝめ如　巧手
郭平よれた後所ゝ春れ月　舎用

遠翠や人のゝ里明ゝ空さゝ里　四羽　陽風
唐幸ゝよりれて年無ゝハ云ふゝ　霞山
面ゝあ免ゝさゝ移ゝ却半ふ　二葉
蓬の香ゝや月の今除れ雪明ゝ　風麦

ゆふ影や蓬の墨年茶一ツ　涼苗
雪ゝ月ゝ夜風雲空移蕉歩　呉蓋

ゝ切去のつゝ花見ま一ツ仲ゝ　素山
居ゝ有れ一茶ゝ木のゝ九月の人　吟風
追ふや却ゝ経て嘆ゝ思ゝ　雪光

浴さゝゝや雪ゝ花ゝゝふ天の河　信法　菖蒲
温泉戻ゝとて知れゝ雪れ茶合　三朝里

望月や宋の庭乃こと遠来　加賀　大夢

秋の暮るし雨を抱さる柳かれ　柳壺

下枝乃葉のひしめくや桐一葉　晴江

わらし場の人ましれまぎらか虻　素玉

けふ比よりかへる日も五小田の原　母巖

春影平をそらし墨の牡丹かれ　卓史

出雲平日乳出の宮やわらくら　出雲　鳳兮

虻しつくやさ蝶さけ小蝶子花　栄渓

まとも如影浮ひ行末の乃春　呂鳳

盆過して紙捨ありに朝露哉　越中　逸江

出て来や机の上に乳柴垣く　想兮

誰か待て居るらん子規　蒙里

名残しの別藻乳呂やとめ乃花　越前　布路

さゝ原根の秋を見して蟬を待　越後　乙島

岩つゝのゝもとゝ紫小礼　相一巣　五月

紙入を田乃うの旬ひゝ時ゝ所宮　黄山

却降し面のたゝつゝ小麦うれ　至徳

さゝ山て出て出ゝ礼ひゝや岩ゝ　巴陵

親苔や芝ふ出ゝかゝてゝ出る　ちゝ

寒う鶯や見原礼ゝる苔の先　菜山

名月や雪ゝ見る木乃雫　美濃　雫牛

比安ゝゝ乃ゝ乃ゝ安けきと梅林　藍花

却出ゝと流し婚て安孫の紅　志卜

行と礼く此合し礼却や雪ゝ原　尾張　面后

山ゝ野ハ持ゝ見つゝて明ゝ　一居

京てゝ鶯ゝ冬乃月夜うれ　梅理

鶯も鶯ゝ春ゝ礼ゝ小春　拝谷

空月や塔ゝ年ゝんて出る峰　春津

送てや月の名残うゝ人　李暗
波雪や敵も年礼年賀烟　孫雨
り遠年礼の香乃すゝ小梅哉　春松

蛙人の水乃もひのや妙一礼哉　郭嵩
豆腐とゝ百掃つけて四の月　松常
り さ哉のさいさと覚る春礼　畊雨
結しまゝ恵の弼目や月ゆく　琴雪
吹而もゝ桜や水乃ゝゝ掃く　琴史

ゝゝも巳也波ゝゝ雪和乃礼　蓬阿
谷庭や蝶ゝく春ゝ二三軒　月庵

四乃月雪ゝゝ山ゝ波さ礼波乃　伊芳　崔史
百雪の影地とゝ覚ゝ春哉　雅琴
馬乃ゝて春ゝ抱ゝ水桶ゝ形　子傑

炭ゝゝ水撥ゝてのゝ峠ゝ礼　梅之
野ゝ未ゝや四粒乃咲の餘ゝ水　梅西
不年消て乃雪ゝ哉ゝの泡　乎雪

雪千鳥とうてうや鹿の声　之青
井ひくさやさうこうかうる煙り　立給
さうさうの時雨もるや小笹原　胡蝶雄
岩の内て結ひ餘る初原哉　竹保

響うや春ふる雪の音　虔子
い雲や春ふけ雪一筋飛　漁村
雨孔雀一ふ琴わる芒孔　茗香

不見とも切ふ玄ふ也陸月　伊賀　岩孔

鮫さけふ一り餘ふ雲のうちを江　孫山
明る南うふや　雪　乙也

拍子者皮なる形しよ拍子孔　柴人
四ふ来る水の内辺ふ孔　吉陵
流さふと南多みふふ菜也　文雪

鹿ふふや冷ふ風の今小雪　月峯

[illegible]やあさ[illegible]孤日のゆふ　花渓

紫さくれ中や一樹の[illegible]　弱雄

惜婦の[illegible]　巨松

[illegible]ふ[illegible]おりの世桜下梅の[illegible]　松交

四[illegible]の[illegible]けふの夕立や　玉路

[illegible]ひ[illegible]ちるや[illegible]　玉英

[illegible]の[illegible]の[illegible]　牡丹

[illegible]ふ[illegible]柳の[illegible]　米友

拾五

一[illegible]は[illegible]百[illegible]や[illegible]　麦兮

梅[illegible]や[illegible]　杞柳

ひ[illegible]ち[illegible]　苔外

[illegible]おも[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　又文

[illegible]枝の[illegible]　松月

[illegible]の[illegible]の[illegible]　知足

[illegible]の[illegible]おの[illegible]梅　子里

[illegible]の[illegible]梅の[illegible]　[illegible]

雪れゝ山ハそゝしう一時百　梶乙
荒鈴くゝ小雪降れ　又魁
義深きや雪又菜乃うけ　猫和

その用意ゝ色こゝしけそゝ　車迹
そゝとやきゝ庭ゝ池乃ゝ　樂眉

雨ゝゝゝ外れし壺柳　雪栗
鈴ゝ保の憂くしせこぬ破き壺　鶯山
起伏むすゝ雪の音や和ゝ　井蛙

孤ふ時の鉢を拔き乱れ　翰言　喬石

時ゝゝ時ゝ雲子花　梅雪
小本　雪の音も雪や嚴乃中　震笠
時際乃百や雪乱れ　岩月

雪ゝゝ　雪も白ふや梅　井　時雪
私人のよゝ雪ゝや雲乃峰　松石

丹波

蝶や舟を揚る間も離れし　漂絲

人の手に渡るとみえし鶏の声　梅雪

鄙びたる出かはりや若菜つみ　羽人

手をはなれてはかるゝ若草や　照兮

小舟乃帆おろしてゆく柳かな　硯郎

一吹雪して日のさしけり花乃もと　南涯

蛍しるゝ舟より雲に添ふかな　紫高

草の色やいつまでも是も白　蠟角

桜つゝく鼓に語しかれ　呉秀

雲雀きえし月の出汐や夜かな　翠子

羽おとしをとこぬる小雀の春の空　雪挂

菜の花にふかるゝ身軽し蕗椿　外紫

下くさも色に流れて春日紅　文友

咲しくやはうかとつくる日迷揺　小鶴

梅さけば花のかほりし露かれ　揖广　宋石

昇る月や柴の戸の山の端　外哭
鶏なくやうつる窓のほの　茅村
人減りしよれ月出て秋涼　月峰

遠かりし供ちよりも梅の香　兵庫　翠花
時雨ふる家を根の苔　茅舎
紫ちる袋の底や裾を舞ふ　才松
夏日の人寄ずしるしるしら　机茶
遠くも松ぬ茶の拾ひ　一水大

雨分開ふ井筒の傍や小仙花　伊丹　梅児
搗く米を米の不絶しや擂し粉　伊勢　布国
おしまれ敷の花やは日の光り　茶花
遠ち除く今は戻る花の色　吉石
有明の遠き古ひぬ妻れ月　涼呼

山吹や男ふの子剛の上　伊中　秀面
法雲寺やふんもうえ代さし　一雷
秋男を一寸ふひ此り茶　石鳥

よくかをもちるや新樹の葉の戸　東籬
みちをしのこさてをしへ梅の花　翠雨
幽閑の空年をくるや江の路　雪蘇

おくおもあるて紫宸殿そる祝　波明　墨翁
くるかしく早乃しるを初孫の花　蔣池
四とをく来て臣けるさしの花　松隼
某の光り歩り所をしる雲世　希鯨

卯月雲のをくて初しるの声　白波　不堂

五月雨　仙年四月りををるけを　鳳樓

蓬莱の松をもおしを数雲の花　素阿
ちるをもる雲の雫をけ山の月　素雪
ほ幽のをくをを鶴ををを多り空　羅邨
年乃見四月をもりのさを苔法水　呆風
垂を暑を年をを風て松をし　弦心
吾雲をを指の雲を所をを人る　氣年

鶯若をを所雲をを様の花　英像

雨ふる日和の長さ哉　因古　素兄
けふのうぐひす　春孔目　宋雲
ながらへて　のどやかなる　春性

散りしを日の丸さるる　拾　筑前　斗文
面ちらし　雪さそふ蛙の射傷　烏外
雲をもゝ夕帝仰ぐ　小一郎　宗逸

花の雪孔雀ふる　伊豫　警居
照る日にや　義の弁孔雀　巣国

最ゝ　ひそ〳〵ふ　樊　撥て
さつ　星　やさし　拔　星の下
ひら　拍　やさし　撥て　金　和

暗闇　ふ　ゝ　夕日孔　星　今　宗
ゆ　ふ　ひ　夏の　ゆ　ふ　柳　南
傳　空　拔　ハ孔　て　柳の　ま　ま

今　思　ふ　ま　世　ひ　は　土佐
雪　年　交　て　徐　ま　一　巣

郊馬
碧華
城宗

里宣
宗雪
鶯翁

小旭
文史

伸ふまてに曽の竹けらの煙　嵐夕

ふるしらゝ哉やとれちるまよひの夕雨　半僊

知の花ちりすれ散けり秋風奥　菊茅

さを妻もとゝの形もなるゝ小也　孤山

り妻や伝雲の音ちも却ふ　梅日

ふるさとに雲やとゝ茅　就雲

ゝ花ゝ花ゝ根ゝ藤ゝ　芦秀

ゝ牡ゝ花ゝ羅漢寺　ゝ

草子ふの手ゝ行ゝ　秋性　固爻

ゝ雲やゝ山ゝ　小林　郭山

響や雷の山ゝ　岩谷

上ゝ山ゝ　一松

ゝゝ　二松

ゝ雲ゝ　松

ゝ雲ゝ古ゝ小雲ゝ　梅空

ゝ水ゝ山ゝ山ゝ　燈鳥

ゝ仙ゝゝ　爽岱

長〳〵とうくる雲孔雀明るれ　青嶺
水傑やおぼろの面ふ色うく結　雨朝
ふる雪ひ〳〵と尾の尺しられけり　一泡

出くも色命や雪ふく暗しうる京古墓　拂古
明る色やおすひけれなおうこうろ、　久来安

人雪孔すやうれ那むふ山　宣味
ふ日や流まうる流ひ一茅の尾　紫煙
今寒ふる雪とふ雪ふ也激ふる足　茅霜

山川の雪をひうく〳〵等河鹿　茗水
出う時むふのふ雪涅槃像　一拙

妻秋をひうふ雪ふ茶のあ山　南街
子川ほうを指のうを蟬しふ色　三茅

日ハ霜ふうふ孔て三〳〵鹿の藝　安藝　琴村
紅の表を志ふ〳〵ふく郭ふ　休外
夏ふ孔ふまうふ年義牡丹ふ孔　茶陵
虹の橋午消ふ鳥や初しふ色　肉晴　松巣

夜雪うしろ丸ゐて冬の雲　泉春　杜陵

雨ふるこゑ聞くなり冬の雲　出雲　雨客

人絶や花よりうしろ冬の蝶　如故

紅うすの供うてけさのうえ　紀伊　悠く

赤紙と落ちかゝる蝶の蝶　寸長

向ふのうちに高丸一宋古寺　紀伊　三考

年よりうしろさくらのかげて蝶　日向　双鳥

新しきゆうべうしろ丸ゐて不如帰　弧岳

教すゝめふやこゝ川より村雨　麓ケ　馬翁

降雪の夜うしろおもうくうち　紅冠

うしろうしろのうしろ鳴ふ后丸月　紀伊　宋雨

雪卸のうしろ又降山鳴ふ鶯　雪毋

雪ふる傘千部や燕子花　弓象

蓮ふる柳乃うしろ蓮や煙の曉　蓮世

うしろうしろ虹のあふ姫子丸春ゆ　四白

敷博もいよいよ面の色こそ　対山
ゆるぎなきかの高根なる如き草の家　宋斗

如月のそらそらしく交山原ふかき夕霧　ほ内　古鏡
那須野原草もえそむる弥生哉　石二
外の樹の芽ぶきやうやう色ぶかし　蓋水
井の底ふかきけしき原和てふもむ　松眉

掃きれのしてふ安き牡丹うれ　大咲　牛晴
時ふんで来るべきさやうの鶯　石楚

越つれ高くくるやうの雲　素良　茂彦
鶯の鳴ゆきしまの紫うれ　芝昇
笹くれの若草もいまだ雪の残り　松蹈
木船の出つるる呼れ月おぼろ　丈蓮

咲ふ木ぶるる高如とる紅梅の蕾ふる　月陳
卯ふもの蕾染めて来て咲くらく　金苑

佐ふ
雪解ふ谷の水の数々冊て移る　嵩風
ゆく春の雲ふそふ山の色　梅巣

時しらぬ弘子川のさゝ紅　陣山
寿しらぬ桃の花の心より　梅雪
留しらぬ紫陽花の移ろひ　正清

来信しらぬ秋の山の色　芦路
ふるさとの四方よりけて山の紅　好之
留しらぬふるさとの秋　金岱

紫の雲の揺すしるを乃国　宮治
おり見やおりもとそ思ふ日の暮　信系　柳金
嘆陰

川もの雲ふれりけり安曇　重　水　波同
ふつとそ陰を雲の麦をしけ　桃立

さゝ分れやひハ色色と芋安　雪雷
安さ新の下紫ふるふる孤ふれ　飛二
おり新も陰ふく吟し　潦　妻芙
紫の雲や新ふれふ紫　拾山

秋すゝ年ふるふる新の紅葉ふ飛　葉屋
せしふふ紫雲宗乃峰よ日八入也　玄子

紫苑の年は安く思ひ捨て礼意　紫苑

所狩ものちく所迄る月　梅民

小豆粥を食ふちと祝ぎて　〃

清く煙の意年　岩ちる　忠

御方年を仕く迄る迄書家　〃

みれも義くく礼けり　民

吸ものを礼ほよさめく紙おろし　忠

ゆる礼夢ちく礼女おも　民

く紀くさふ前月も砥く合意く　忠

ゆくくくく鈴ゆけつ事てくく　民

馬さみくく四ゐ十表縁　忠

人形竈のくゆる　源ふを　民

富士の名意月　稲仕ゆるゆ捜し　忠

岩意ゆ　筆もおしく忠忠

民

おもとの方炭のある約束桶　兵
孫太郎ものしかまり出屋　民
世男の豆腐もさる月紙ろ　兵
ゆうとう紙小桶をなく　民
ひもくと祭り職そろ釜　〃
打変ろしけり変子色へる　兵
孝太郎かゆうさの使ひ　民
出そろ変ろ8年兵独ろ　兵

振義すろ田のうさよ地　弘　民
繻の背帳もさろ出さし　兵
百姓年笠高て低る打もろ　民
悪ろもちと田和ろ紫ゆす　兵
はひすろろ孔ろ丸す歌ろ　民
ろろ拾ろ咲く医ろ小一色　兵
兵月の果吹やろ風も敬一　民
寿くさうん色ろ家の行ろさ　兵

高うけたる人の袂に　魚

くれ陽の紅葉なる紅葉　民

紅葉のくれなゐ明るき野の雪　丶

寒くもあるかな宇治の山嵐　魚

さく花平等羽織を思ひ出す　丶

汁の実に冷えまさる時雨　民

絶えしけや幕ふかうる雲と雲　魚

ちらく残る蛩の月　三雲

降り弱のうらく白ひと蜻蛉　雲光

ちら降くるる菜畑の長雅

弾きん平一元夢孔雀のうち　雲

見除き山ちくふ笹ひけり　光

年月過ぐるふるて時雨花　雅
君つれ礼をふるる夜は過　雲
をれいひおちつるとと知れる武蔵国　光
歌乃せう年　哀れらふ　秋　雅
狩ふる卦　雲
ふるの屋つ年　世こちる　光
墨紅乃ものる時より昇る月　雅
ものふ心ふの時　雲

ひち年の　撰　8　寄せ　地　蓋　光
春乃　春ふ年　さる　賞　右　雅
小春ふる料　理好　す　芸のり　雲
ふる年　野ふ　入れ　ふ　紅　光

右

[illegible]れ乃先く特よ出る芭蕉　公成
[illegible]おさ[illegible]く妹乃面　菊地
最[illegible]の[illegible]て[illegible]れつる　土風

[illegible]や義[illegible]さんを深しつゝ　太和
[illegible]ふ遠き[illegible]る　公元　素伝
[illegible]　宣咲

之日も雪[illegible]つゝふ　第[illegible]南　を江　玄竜
降[illegible]く[illegible]　芦栖
雲[illegible]け[illegible]　侍中　卜隋

湖南京壺堂催

俳紙に乳仙　梅便居士

[illegible]れ[illegible]れ　芝渓
[illegible]ふ[illegible]ひく　桑魚
[illegible]く[illegible]　渓
[illegible]く[illegible]
[illegible]れ[illegible]の自[illegible]　魚
[illegible]市の[illegible]刀　渓

物柄ハけゝる某稀る病ひ色
きわり病ひのすゝきゝ常なむ　渓
如ゝ比拾色と乳のけゝるよゝ　忠
歳筆ゝてゝる世りゝけゝ色な　渓
月代年暑きれきゝる築地根　忠
比ゝるきゝゝ小源ゝ茅むゝ　渓
筏佛の供ゝるれゝ年妙ゝゝ　忠
きゝゝな往ゝ行毛明ゝゝゝ　渓

猪引ゝ雲墨茅を掃ゝゝゝ　忠
きゝゝのゝ源ゝれゝ迄ゝ寿ゝ　渓
人葬雲鈴ゝゝ比む照ゝゝ　忠
ゝゝ茅茅年源ゝ茅ゝ　渓

右一枚

雲ゝ居る響を低くわたる雁　泉堺　岷角

三日月や一ふさ残る孫さくら　鹿野　安

三京四字ふ雲をとゝらてけふの月　休叟

見つけて居る日すゝれ　拾吟　左京屋張　蕉鹿

大仏を中千ちきんて吉田ゝ家　陸　此風

菜も一ゝ丸森ても白ふやゝ規　江戸　梅嶺

名月や隠れ家ゝ見抱の人　出羽　亀蕉

拾ゝ屋ゝんの底ゝ時ゝふ雨　稽ナ　黄山

蕉

清流の水清清ゝ雨

孤ゝ陸ゝ見ゝ見ゝ弦ゝ如ゝ月

出ゝ空ゝ人ゝ出ゝ立ゝ待ゝ月ゝ

あゝ秋ゝい此ゝ月ゝ雲ゝ出ゝ孤ゝ

見ゝ空ゝ陸ゝ見ゝ見ゝ雨ゝ雲ゝ雨ゝ

世ゝ人ゝ秋ゝ月ゝ孤ゝ陸ゝ雨ゝ

きうに無拍毫大人を法眼と
よまるく是必弱といふ事に
きゝたまはるわれ尊師の門の
風を慕し弱冠人を師の
家乃内をもて清潔
なるこの花を必弱なわい
毫をよまくく論者一驚し

ふるわ十三年の春この事ともを
ものにこの肖像の賛をもて
もて西王母ゆやうにまを奉り
まを純御に献ぜ清潔の水
をもてすまにもて毫を洗ひ
社会の事世乃人
集てもの興をとなるあ

学問を可成門人等に教授致いつ
ゝ之に従ひ学ぶの者多
く有之候へ共事業乃
拙き事を恥て
弟子と称せざるを以て
出版仕候

梶恵記

稲生堂
青校